

第1～4回検討会に係る補足説明

資料1

関係議事	指摘事項	対応状況 担当	添付資料
1 第1～3回検討会に係る補足説明 (水質保全対策の検討【No. 6 水生動植物の利用又は回収】)	1 「湖岸の自然浄化機能の回復」について、生態系の保全を全面に押し出しているが、水質等の浄化機能にも着目し、底質や水質に及ぼす影響を考慮していくことを加えた方がいい。	生態系の保全等に加え、水質や底質への影響にも着目する内容に修正しました。	①
第1～4回検討会に係る補足説明 (水質保全対策の検討)	2 議論をしたものをまとめて、資料を修正してもらえるか。	各水質保全対策の資料に今までの指摘と対応を反映させました。	①
第1～4回検討会に係る補足説明 (水質保全対策の検討【No. 10 調査研究の強化】)	3 最近では底層DOなどの測定の際に、データを記録する装置を設置する、ロギングといった観測手法が流行っている。これを記載すれば、最新のことに取り組む姿勢が感じられるので、追記の検討をしてほしい。	水質調査の追加・拡充に、ロガー等を用いた水質の連続測定についての必要性を明記しました。	①
2 第2期計画の対策と水質の状況について	4 様式や体裁の話であるが、P4～5の評価では、各項目の簡単なまとめを一番先に書いてほしい。今後の課題では、最後の文言の結びを統一しない方が良い。P11の表右側の予測という欄は、計画に言い換えた方がいい。 また、P17のまとめだが、今後の取組方針では、生活雑排水対策の継続が最も重要だと読めるため、農地対策を全面に出すために最後に書いた方がいい。 P20のグラフで、計画の年次を示す矢印がずれている。	資料中の文章表現やグラフを修正しました。	②
	5 個々のまとめはいいが、全体としてうまく全貌がつかめていない部分をもう少しあぶり出し、それは次の計画期間中に解明するといったまとめの仕方がいいのではないか。	水質の状況について、未だ把握できていない部分を記載し、今後その解明が必要であるといった内容に修正しました。	②
	6 最低限でいいので、水質の分析を書いて欲しい。また、基本的なデータである降水と気温は追記してほしい。	水質の分析及び降水量等の気象条件に関するデータを追加しました。	②
	7 生活排水に関しては、下水道と農集と合併処理浄化槽を合わせた数字として、生活雑排水の処理率を流域全体としてまとめた方がわかりやすい。	生活排水処理について、流域の生活雑排水の処理率を追加しました。	②

3	第3期計画における対策の実施方針案について (資料4 第3期計画における対策の実施方針案)	8	現場で説得力が出るので、施肥の効率化の中に、土壌診断に基づく施肥を入れることを検討して欲しい。 ※第3期計画素案でも同様の意見(下記)	普及指導員等による土壌分析では面積は把握していないため、現状では、面積の把握や、目標面積の設定が困難です。そこで、現時点では土壌診断による適正施肥の奨励とし、今後、農林部と連携しながら必要な対策があれば取り組みます。	③
		9	農業集落排水処理施設の普及率について、目標値が現況よりも下がるのは、下水道に接続する施設があるため、と注釈を入れてもらえると助かる。	農業集落排水処理施設の普及率において、目標値が現況よりも下がる理由を追加しました。	③
		10	それぞれの項目に関して、もう少し内容を検討して、目標達成のための具体的な進め方を記載することが重要だと思われる。	目標達成のための進め方を追加しました。	③
		11	第3期に関しては右の欄に目標値しかないが、その前に設定方法を書くと、表としては非常に見易くなる。	目標値の設定方法を追加しました。	③
		12	その他の区分の、「水生生物の動態や内部生産」と、「二枚貝等の動植物の生育状況等調査」の2項目の関連性を整理をした方が良い。	「二枚貝等の動植物の生育状況等調査」について、動植物は他項目での調査として本項目から除外し、ここでは二枚貝に特化させて、「二枚貝の生育状況等調査」に修正します。	③
		13	関係者の同意を得ることが困難であるため、シルトフェンスによる南部排水機場の濁水拡散防止は実施困難とのことだが、濁りを沈降させる努力は継続する必要があるのではないか。	南部排水機場からの濁水処理については、調査研究の推進における、「流入河川や農地排水による汚濁機構」の解明や「農地排水の浄化対策」で取り組んでいきます。また、今までの検討経緯は添付のとおりです。	④
		14	資料4、縦ではなくて横書きにして、第3期計画に目標値と、対策を記載してはどうか。特にかなり割合の大きい面発生源対策、農地で普及を進めるため、農家や農業試験場の工夫を記載するなど。そうすれば、これを踏まえるとこの目標値が実現できると、読む人は理解しやすくなる気がする。	資料の構成や記載内容を修正しました。	③
		15	アオコ対策というと、湖に何かをして、アオコの発生を抑制する等の印象が強い。河川での遡上アオコの対策であれば、もう少し具体的にアオコの何とか対策等と書いた方が良い。	本対策は、住民への悪臭被害を防止する内容であるため、「アオコ対策(悪臭被害の防止)」に修正します。	③

4	第3期計画の対策案による水質改善効果について	16	P46をまとめるとどうなのか、3地点、5項目、6年度について、変化や地点差が表現できてるのか、どの項目は合わせにくいのか等もう少し整理してほしい。この全体の再現性の確認をもう少し整理して、不足している情報を、次期の調査・研究の話として提言する必要だと思う。	各地点の現況再現結果を整理し、項目や時期による変化を考察しました。また、併せて精度の向上のための課題や解決策を抽出しました。	⑤
		17	P46について、相対でもいいので何%ずれているか数値を出して欲しい。さらに、上や下などずれ方も別に出してもらえるとわかりやすい。	実測値と計算値の差を誤差率として整理しました。また、それぞれの値の相関関係を整理し、ずれ方の傾向を確認しました。	⑤
5	第3期計画素案	18	P3の図2のグラフだが、変動が大きい項目を下に積むと、全項目が同様に変動しているような錯覚をもつ。そのため、安定している自然系とか市街地系、あるいはその次の農地系を下に積む必要がある。	各項目の変化で錯覚が生じにくいように、数値の変動が安定している市街地系や自然系を下部に移動させました。	資料5
		19	P6以降の下水道等で、行政人口の目標というのは違和感を感じるので、ここからは外した方がいい。それから、P8農地対策では、第3期計画で、どう次期に向けて進めていくのかという、意気込み、取組の具体的な方向性をできるだけ書いてほしい。	下水道等の整備では、行政人口を目標の欄から移動させ、農地対策では、目標達成のための具体的な方向性を追加しました。	資料5
		20	P8の施肥の効率化に、側条施肥の下に「土壌診断に基づく施肥」と追記してほしい。現況面積は各周辺の農協から聞き取り、目標値を決めてほしい。	普及指導員等による土壌分析では面積は把握していないため、現状では、面積の把握や、目標面積の設定が困難です。そこで、現時点では土壌診断による適正施肥の奨励とし、今後、農林部と連携しながら必要な対策があれば取り組みます。	資料5
		21	農地対策が非常に重要なので、調査・研究等の推進に、原単位検証の調査を入れる等と、もう少し綿密に調べるようなことを第3期にやった方がいいと思う。	農地関係の負荷量の検証は、調査研究等の推進における、「流入河川や農地排水による汚濁機構」というテーマで取り組むことにしています。	資料5
		22	用語集の無代かき栽培の後に、進め方の工夫とその結果のような内容を僅かでも加えてもらえると見やすい。また、同じように無落水移植栽培も、湛水深等を付け加えると見やすくなると思う。	用語集の無代かき栽培と無落水移植栽培の項目に、進め方の工夫等を追記しました。	資料5
		23	P4の八郎湖の長期ビジョンについて、「恵みや潤いのある“わがみずうみ”」というの、非常に大々的で良いが、それを目指して何かいろんなことを策定等するというのも重要なので、最初の4行を強調させる等の工夫が必要だと思われる。	長期ビジョンやその実現のための方針の表現を修正しました。	資料5
		24	秋田県の環境研究機関について、私の知る限り真面目に業務に従事している機関だと思うので、第3期計画にその役割を記載して、意義を県民に知らせた方がいいのではないか。	計画では、各組織や機関の名称を具体的に記載していないため、県の環境研究機関である健康環境センターも同様に個別の名称の記載は省略します。	資料5